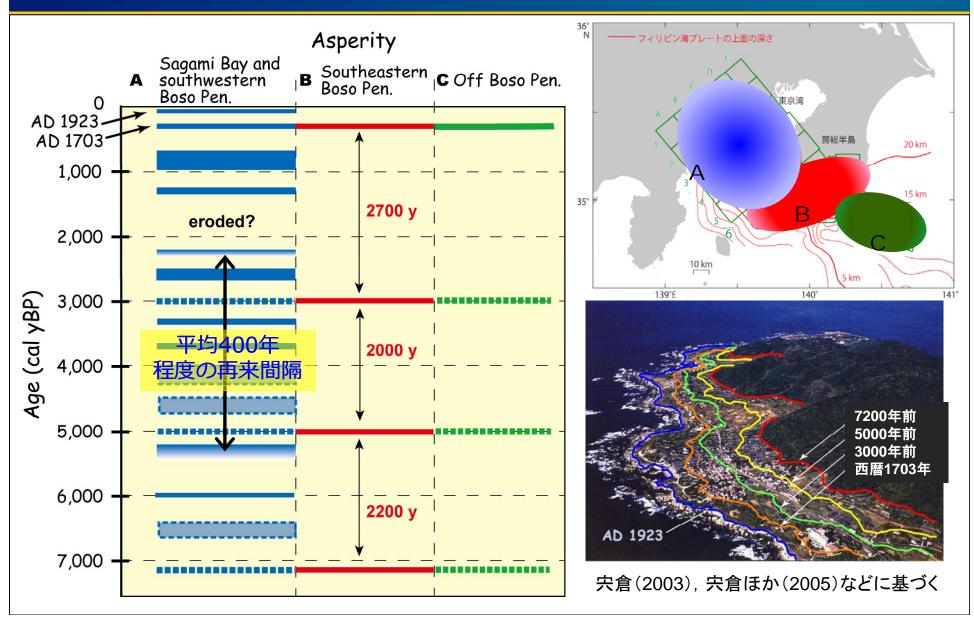
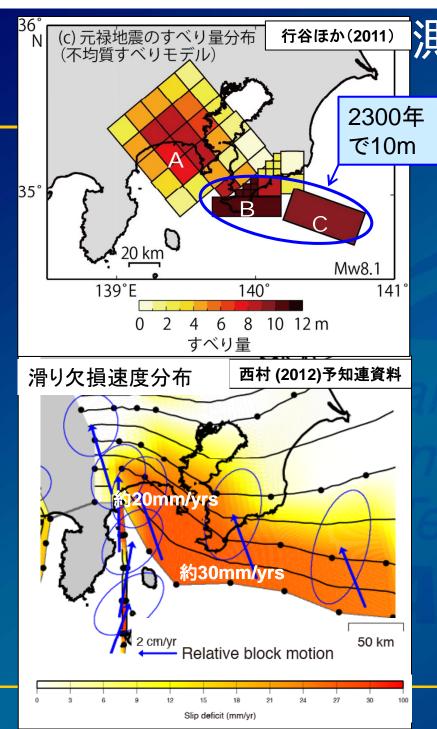
AIST

房総半島の海岸段丘から明らかになった 相模トラフ沿いにおける古地震の履歴





測地と地形・地質との矛盾

地震調査研究推進本部(2004)による評価

大正型(Aの領域)

:200~400年

元禄型(ABCの領域)

:平均2300年

Aの領域はすべり欠損速度が年間約2 cmで, 大正型が1回あたり5-10mすべるとすれば, 収支が合う. 一方, B~Cの領域は年間約3 cmで2000-2700年間隔では, 1回あたり60-80mすべらないと収支が合わない.

B, Cのみ動くタイプの地震が 頻繁に起これば解消できる?

内房と外房とで段丘の年代が一致しないところがある 館山 NumaIV Numa III Numa II Numa I 20 4400 cal yBP 千倉 15 Altitude (m) 外房 2700 cal yBP 砂丘・浜堤 沼1 面群 沼田面群 沼皿面群 沼IV面 (元禄段丘) X_N 断面図の測線 5 内房(館山) 1<u>k</u>m -5 30 外房(千倉) 宇野ほか(2007) Numa I 内房と外房とで別々 21 m 5300 cal yBP に隆起する地震があ Numa II 20 17.3 m 4400 cal yBP っても良い Numall 11.5 m *650±40 y BP *670-540 Cal BP NumalV 6.5 m 10 外房沖のみが割れる medium sand fine sand silt/clay 4,470±40 y BP 5,300-5,050 Cal BP 4,770±40 y BP 5,610-5,470 Cal BP ry peat 地震(外房型?)の存在 3,850 ±40 y BP shell,shell fragment 4,420-4,350 Cal BP 3.910±40 v BP bedrock 200 m 4,510-4,410 Cal BP